

① 静岡県戦没戦災死者慰靈標



基本情報

所 在 : 静岡県護国神社内
住 所 : 静岡県静岡市葵区柚木363
(静岡鉄道 柚木駅 徒歩5分)
連絡先 : 静靈奉賛会 054-263-0148
建 立 者 : 静靈奉賛会
建 立 年 : 昭和27年11月3日

碑 文

【裏】

竣工 昭和二十七年十一月三日
施主 財団法人静靈奉賛會長
静岡縣知事 齊藤壽夫
設計 田中忠雄建築事務所
施工 平井工業株式會社

説明文

【左】

この壇域は明治維新以来太平洋戦争に至る間に國のために命を捧げたもの及び戦禍のために倒れた人々の靈を慰めその遺芳を後世に傳えるために県民の総意によって構想せられたものである
こゝに戦争によるあらゆる思出を収めこれに参するものに新らたな愛國の精神を振り起したせ平和日本興隆の象徴としたい念願である

昭和二十七年十一月三日
財団法人静靈奉賛會長
静岡縣知事 齊藤壽夫誌

【右】

終戦50周年平和祈念事業改修記念碑
平和への誓い
平成7年4月
静岡県知事 石川嘉延謹書

② 静岡県戦没戦災死者春季追悼式



※写真提供 静岡県

開催概要（平成24年度）

歳事名 : 静岡県戦没戦災死者春季追悼式
会場 : 静岡県戦没戦災死者慰靈標前（静岡県護国神社内）
(静岡鉄道 柚木駅 徒歩5分)
日 時 : 平成24年4月26日（木）※例年4月下旬開催
参列者数 : 約1,200人
連絡先 : 静岡県 健康福祉部 福祉長寿局 長寿政策課 054-221-3625（直通）

式次第（平成24年度）

1. 一 同 着 席
2. 開 式 の こ と ば
3. 国 歌 齊 唱
4. 黙 祼
5. 式 辞 : 静靈奉賛會々長〔静岡県知事 川勝平太〕
6. 追 悼 の こ と ば : 静岡県議會議長、市長、町長代表（島田市長）、戦没遺族代表、戦災遺族代表
7. 献 花 拝 礼
8. 電文等奉納の報告
9. 謝 辞 : 静岡県遺族會長
10. 閉 式 の こ と ば

式 辞（平成24年度）

本日、ここに、御遺族の皆様をはじめ、御来賓の方々多数のご参列をいただき、平成24年度静岡県戦没戦災死者春季追悼式を開催いたします。

苛烈を極めた先の大戦においては、多くの本県出身の方々が祖国の安泰と発展を願い、愛する家族の身を案じつつ戦地に倒れ、あるいは戦後、遠く離れた異郷の地において、無念の死を遂げられました。また、不運にも戦災に遭い、お亡くなりになられた方々も多数おられます。

ここに、戦争により亡くなられた方々の御冥福をお祈り申し上げますとともに、最愛の肉親を失われた悲しみに耐えて、戦後の苦難の時を乗り越え、我が国の復興と発展に御尽力くださいました御遺族の皆様に対し、深く敬意を表します。

戦後、我が国は不戦の誓いの下、国民一人ひとりの不斷の努力により、世界に類を見ない程の急速な発展を遂げ、平和国家の道を歩んでおります。しかしながら、今日の平和と繁栄の礎となられた方々への想いは、歳月の流れとともに薄らぎつつあります。今後二度とあの惨禍を繰り返さず、今日の平和をより確固たるものとするため、我々は先の大戦における悲惨な経験を後世へ着実に語り継いでいかなければなりません。

本日、この式典に臨み、戦争により尊い命を失われた多くの方々への思いを新たにし、県政に携わる者といたしまして、誰もが安心して暮らすことができる「富国有徳の理想郷“ふじのくに”」の実現に向けて邁進してまいりますことを、ここにお誓い申上げます。

結びに、御靈のとこしえにやすらかならんことをお祈りし、御遺族の皆様の御平安を祈念いたしまして、式辞といたします。

平成24年4月26日
財団法人 静靈奉賛會
会長 静岡県知事 川勝 平太

③ 静岡市戦禍犠牲者慰靈塔



基本情報

所 在 : 賤機山山頂 浅間山観音広場
住 所 : 静岡県静岡市葵区宮ヶ崎町 賤機山山頂
(JR静岡駅より しづてつジャストライン「赤鳥居」下車 徒歩30分)
連絡先 : 個人であり記載せず
建立者 : 観音像建立協賛後援会
建立年 : 昭和44年12月

碑 文

静岡市戦禍犠牲者慰靈塔
六鵬玄と薰沐齋戒謹書

説明文

救世觀音菩薩縁起
吾が静岡市は昭和十九年十一月五日南太平洋マリヤナ基地よりB29一機本市上空に初めて侵入してより昭和廿一年八月十五日終戦に至る迄殆んど連日の如く侵攻し特に本市上空は京浜都市及び中京都市爆撃の経路として空襲警報令極めて烈しく其の為市民は心身共に恐怖と疲労に陥り且戦時体制下に於ける生産活動能力は頗る低下を来たしその間に受けた被害は非常に大なるものがありました。静岡市の受けた空襲による被害は被爆度数十二回死者、八一三名重傷者八三〇名全焼却建物一四八戸焼却建物二五、二三九戸罹災者一八八、七四六名の多きに上る特に昭和廿年六月十九日夜半過ぎよりB29の大半が乗組により全市が破滅状態となりました。其の状況はB29百機零時五十分から三時四十分に至る約三時間單機や數機によつて波状的に飛来し大型小型の焼夷弾を無数に投下し密度の高い続々爆撃を行つた次第であります。其の被害状況は罹災世帯数一四、四五九戸罹災者一一〇、〇四六名死者、六六九名重傷者八〇〇余名其の後重傷者中死んでしまった者多數に及びましたなお本市は去る昭和十五年一月十五日の大火に罹り全市の大半を焼失しましたが犠牲者は僅か一一名の死亡のみに止りました。然るに今次の戦禍の如何に遭難したる事は皆様の知悉する所であります。戦災者は永年の家業と貴き人命を一朝に失い其の惨状は筆舌に盡す事は出来ません。雨露の如く落す下する焼夷弾の中を老人子供は病人等何の罪もない非戦斗員とか迷い夫は妻を庇い妻は子供を護り阿鼻叫喚般地獄絵巻其の體であります。私は比のようないくつかの犠牲者に対し眞に御心の善にたえません。然も一家全滅の憂目をみられ祭祠の出来ない多くの方がある事を知りまして御慰靈追悼申し上げると同時に人間生存上再度断続的な人災は構成しない様発願致しました猶其他内地外島非戦斗員が千数百人の多数の戦禍のため犠牲となられてても國家社会は年月の去るゝと共に忘れて行く状態は御靈と御遺族の心境に対し眞に同情に堪えませんので合祠させて戴き全市民の皆様と併に永久に四恩報謝の誠意を持けたいたいのであります。

昭和四十年十二月吉日 署記 喜慶松
西暦一九六九年 建之 書刻 横井石堂

④ 静岡空襲犠牲者日米合同慰靈祭



※写真提供 菅野寛也

開催概要（平成24年度）

歳事名 : 静岡空襲犠牲者日米合同慰靈祭
会場 : 静岡市葵区 賤機山山頂
(JR静岡駅より しづてつジャストライン「赤鳥居」下車 徒歩30分)
日時 : 平成24年6月16日(土) ※例年6月19日に近い土曜日開催
参列者数 : 約250人
連絡先 : 個人であり記載せず

式次第（平成24年度）

- | | |
|---------------------------|------------------------------|
| 1. 黙祷 | 8. 献花：日米（同時） |
| 2. 主催者挨拶：菅野寛也 | 9. 静岡市静岡仏教界会長挨拶：歓昌院住職 |
| 3. 米国大使メッセージ | 10. 献酒 ①日本側献酒（静岡市戦禍犠牲者慰靈塔へ） |
| 4. 静岡市戦災遺族会監事挨拶 | 11. ②米国側バーボン献酒(B29墜落搭乗者慰靈碑へ) |
| 5. 在日米軍横田基地第374空輸航空団司令官挨拶 | 12. 祈祷 横田基地第374空輸航空団 米空軍牧師 |
| 6. 自衛隊静岡地方協力本部長挨拶 | 13. 鎮魂ラッパ |
| 7. 静岡市 田辺信宏市長メッセージ | 閉式の辞 |

挨拶（平成24年度）

雨天時にも拘わらず、平成24年の日米合同慰靈祭の為に、此の山頂にご参集くださいまして、有難う御座います。
私は、昭和47年から、故 伊東福松さんの意思を引き継いで、此の慰靈祭を主催して参りましたが、今年で40年目となり、日米親善の一助となりつつある事に感謝いたします。
室内と私は、昨年1月2日に開戦70周年の真珠湾の式典に参列しました。
1月7日にArizona Visitors Centerで開催されたCeremonyには、5千名以上のアメリカ人が参列しましたが、日本人は私と妻の2人だけでした。
Hawaii提督のご尽力により、ARIZONA MEMORIALのデッキでご一緒にB29搭乗員遺品の水筒の中にいた Bourbon Whisky で献酒を行いました。
参列された多数のアメリカ人にも、慰靈の意味が伝えられたと確信しています。
更に、艦載Missouriで、Mike艦長と同様の献酒を行い、両国犠牲者のご冥福を祈つて來ました。
昭和20年4月11日 神風特別攻撃隊の1機の零戦がアメリカ戦艦 MISSOURIに体当たりしました。後部第3砲塔付近、右舷に、激突した痛みがあり、近くの後甲板に小さな Monument があります。
零戦突入後、消防作業をしていたMISSOURIの搭乗員は残骸の中に零戦の搭乗員の遺体を見つけました。
戦闘中であるにも拘わらず、キャラバン艦長の命令で、遺体は丁寧に運び出され乗組員手製の日本海軍の軍艦旗に包まれて、翌日葬式に、水葬されました。
此の事をきいて、私は深い感動に包まれました。
B29の慰靈碑を建立された伊藤福松さんと、キャラバン艦長の行為は、全く同一の、人道的な、素晴らしい行為であると信じます。
世界平和の為には、日米両國の親善関係が一番大事だと思います。
私は、国家間の相互理解、友好關係を築く事は、多くの、Trouble を避けることとなると信じています。
私達の慰靈祭が、世界平和の一歩となる事を祈っています。

参列の皆様に、神仏のご加護があります様に祈念し、改めてお祈り申上げます。

平成24年6月16日
菅野 寛也

※補足：昭和47年より続けてきました。かつての敵どうしあつた両国の犠牲者の慰靈祭により関係者は「昨日の敵は、今日の友」となっている。「憎しみで、憎しみを消し去ることは出来ない」この慰靈祭の輪が年々広がってきているが、世界平和の第一歩となるように祈っています。

⑤ 戦争犠牲者追悼碑



基本情報

所 在：駿府城公園
住 所：静岡県静岡市葵区駿府城公園
(JR静岡駅、静岡鉄道 新静岡駅 徒歩10分)
連絡先：静岡市 生活文化局 市民生活部 市民生活課 054-221-1265 (直通)
建 立 者：静岡市
建 立 年：平成7年8月15日

※一般戦災死没者を含む

碑 文

戦争犠牲者追悼碑

静岡市は太平洋戦争により昭和十九年(一九四四)十二月七日から二十年八月一日までの間に十六回にわたり米軍機による空襲を受けました。とりわけ昭和二十年六月十九日深夜から二十日未明にかけてB29爆撃機百二十三機による大空襲を受け市内のはとんどが焦土と化しました。これらの空襲により静岡市民二千余人の尊い人命と貴重な財産が失われました。またひたすら祖国の安泰と家族の幸せを念じつつ幾多の戦場に散った静岡市出身の軍人軍属等七千九百余人の尊い犠牲も生じました。私たち静岡市民はこのような悲惨な戦争を拒否し日本国憲法の示す精神を体して昭和三十五年(一九六〇)三月二十五日静岡市平和都市宣言をして永遠の平和を誓いました。

いま終戦五十周年(一九九五)を迎えるに当たり市

民の血のにじむような努力により復興した県都静岡の市民憩いの地に戦争のむなしさを永く記憶にとどめ多くの犠牲者を追悼するとともに世界の恒久平和を祈念してこの碑を建立しました。

平成七年八月十五日
静岡市長 小嶋善吉

【母子像】

とこしえ

静岡市戦災被爆地図

静岡市空襲被害概況

空襲期間	昭和19年12月7日～昭和20年8月1日
空襲回数	16回
大空襲期日	昭和20年6月19日深夜から20日未明
襲来機	米軍ボーイングB29爆撃機123機
投下焼夷弾数	13,200余発
死亡者	2,000余人
行方不明者	50余人
罹災家屋	26,700余戸
罹災者	118,700余人

出典 静岡市空襲の記録(静岡市空襲を記録する会編)

⑥ 静岡市戦没戦災等戦争犠牲者追悼式



※写真提供 静岡市

開催概要（平成24年度）

歳事名：静岡市戦没戦災等戦争犠牲者追悼式
 会場：静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ
 　　（JR東静岡駅 徒歩3分）
 日時：平成24年8月15日（水）※例年8月15日開催
 参列者数：578人
 連絡先：静岡市 生活文化局 市民生活部 市民生活課 054-221-1265（直通）

式次第（平成24年度）

1. 開会のことば：静靈奉賛会静岡市支部理事
2. 国家斉唱
3. 黙とう
4. 式辞：静靈奉賛会静岡市支部長（静岡市長）
5. 追悼の辞：静岡県知事、静岡市議会議長、静岡市静岡遺族会会长、静岡市蒲原遺族会会长
6. 献花
7. 閉式のことば：静靈奉賛会静岡市支部理事

式辞（平成24年度）

本日ここに、ご遺族の皆様方をはじめ、ご来賓の方々多数のご参列のもとに、静岡市戦没戦災等戦争犠牲者の追悼式を挙行するにあたり、静岡市民を代表して、戦争犠牲者の御靈に対し、謹んで追悼のことばを捧げます。

先の大戦で、国難に殉じ数多くの方々が国内外において散華されたことは、私たち日本国民にとって永遠に忘れてはならない深い悲しみであり、痛恨の極みとするところであります。

最愛の肉親を犠牲に捧げられたご遺族の皆様方のご心情を拝察するとき、お慰めの言葉もございません。

一家の支柱を失い、戦後の厳しい社会情勢の中で長い間、幾多の苦難に耐えながら、立派に子弟を養育し、また家業に精励してこられた、その並々ならぬご努力に対し衷心より敬意を表する次第であります。

今日のわが国は、民主的平和国家として、文化的にも経済的にも世界の先進国としての地位を確立するまでに発展いたしました。

その中にあって本市は政治・経済・教育・文化・情報などにおいて静岡県の中心的都市として、また政令指定都市として飛躍的な発展を遂げつつ、今日に至っております。

これも偏に戦争犠牲者各位の尊いご加護と、ご遺族の皆様方から寄せられたご支援ご協力の賜と感謝するところであります。

戦争終結から既に六十七年の歳月が流れ、戦争の悲惨さや苦しみを知らない世代が国民の八割を占める時代になりました。今私たちは平和で自由な生活を当然のごとく享受しておりますが、このことは「昭和」という激動の時代と引き換えに得られた幸せであると申し上げても過言ではない存じます。

昨年三月十一日、東日本大震災により尊い命が奪われ廃墟と化した街並、一年五ヶ月の時が経過し復興の兆しも見えて来るものの、失った尊い命は還りません。震災により一瞬にして奪われ、残された家族の思いに、戦争で失った命を重ね合わせ深い悲しみが胸に迫ります。

いまだ世界各地で地域紛争やテロが続き尊い命が奪われる中、「平和」への思いを身をもって感ずる次第であります。

私たちは、悲惨な戦争の教訓を風化させることなく次世代に継承すると共に、平和の尊さを訴え続けていかなければなりません。

本市では、政令指定都市としてのまちづくりに邁進しておりますが、長年にわたって培われてきた歴史と文化そして恵まれた自然環境など、貴重な財産を活かしつつ「心豊かに安心して暮らせるまち」の実現に向け、更に精進を重ね最善の努力を傾注することをお誓い申し上げる次第であります。

結びにあたり、戦争犠牲者各位の御靈がとこしえに安らかならんことをお祈りするとともに、いつまでも、わが郷土の繁栄と平和を見守り給うことを念じ、併せてご遺族の皆様のご多幸を祈念いたしますと、式辞といたします。

平成24年8月15日
 財団法人 静靈奉賛会静岡市支部長
 静岡市長 田辺 信宏

⑦ 清水市忠靈塔・平和祈念碑



基本情報

所 在：清水忠靈塔公園
 住 所：静岡県静岡市清水区迎町2081-1
 （JR清水駅よりしづてつジャストライン「忠靈塔前」下車 徒歩2分）
 連絡先：静岡市 生活文化局 市民生活部 市民生活課 054-221-1265（直通）
 建立者：清水市（現 静岡市）
 建立年：昭和34年3月

※一般戦災死没者を含む

碑 文

清水市忠靈塔

西南の役より大東
 亜戦争に至る戦没
 並びに戦災殉難者
 の靈を慰めるため
 市民各層の協賛を
 得て昭和三十三年
 十一月これを建つ

清水市長
 鈴木平一郎

【表】

平和祈念碑

【裏】

すぐる太平洋戦争では多くの市民が戦地で
 あるいは空襲により傷つき犠牲となりました
 昭和二十年八月十五日の終戦から五十年こ
 れら多くの御靈にあらためて深く思いをいた
 し不戦の誓いを新たにすることで世界恒久の
 平和を祈念するものであります

平成七年八月十五日
 清水市長 宮城島 弘正

10 「戦没者を追悼し平和を祈念する日」の式典



開催概要（平成24年度）

歳事名：「戦没者を追悼し平和を祈念する日」の式典 ※一般戦災死没者を含む
会場：沼津市民文化センター 小ホール
(JR沼津駅 徒歩15分)
日時：平成24年8月15日（水）※例年8月15日開催
参列者数：500人
連絡先：沼津市社会福祉課 055-934-4824（直通）

式次第（平成24年度）

1. 開式のことば
2. 国歌齊唱
3. 一同礼
4. 式辭：沼津市長
5. 黙祷（テレビ中継）
6. 天皇陛下のおことば（テレビ中継）
7. 献花：遺族代表
8. 追悼の辞：静岡県知事、沼津市議会議長、遺族代表
9. 閉式のことば

式辞（平成24年度）

本日ここに戦没者・戦災死者のご遺族、ご来賓、並びに市民の皆様の多数の参列のもと、平成24年度「戦没者を追悼し平和を祈念する日」の式典を挙行するにあたり、戦没者並びに戦災死者の御靈前に謹んで哀悼の意を捧げます。

先の大戦が終結してから、67年の歳月が過ぎ、さらに今年は我が国がサンフランシスコ平和条約を受け入れ、国際社会への復帰の第一歩を踏み出しから60年目の節目にあたります。

戦後、我が国は幾多の困難を乗り越え、目覚しい発展を遂げて参りました。敗戦の悲しみに耐えながらも、懸命に社会の発展に尽力してこられました諸先輩方の御功績を顧みますと、その忍耐とご努力に対し、心から敬意を表する次第でございます。

今日の平和と繁栄が、先の大戦の尊い犠牲の上に築かれたものであることに改めて思いを致し、その事をしっかりと後世に伝え、平和な世の中をつくっていくことが、今を生きる私達の責務であると考えます。

結びにあたりまして、心から御靈のご冥福をお祈りすると共に、ご遺族の皆様方のご平安を祈念いたしまして、式辞といたします。

平成24年8月15日
沼津市長 栗原 裕康

11 平和之礎



基本情報

所 在 : 扇町公園
住 所 : 静岡県島田市扇町7-1
(JR島田駅 徒歩5分)
連絡先 : 島田市 総務部 総務課 0547-36-7132 (直通)
建 立 者 : 扇町内会
建 立 年 : 昭和56年5月

碑 文

【表】

平和之礎
爆撃の
むごさ正眼に
しるわれら
訴へ継がん
平和なる世を

【裏】

被爆犠牲者氏名
(故人名)
昭和五十六年五月建立 扇町区

説明文

太平洋戦争終結間近の昭和二十年七月二十六日午前八時四十分頃本土来襲の米軍機から投下された爆弾一発は我が扇町内に落下炸裂したこれにより即死者三十三名重傷死者十四名、重軽傷者約二百名、潰滅家屋数百戸に及ぶ大惨事を惹起した 仍て茲に碑を建立して犠牲者の冥福を祈り併せて平和の貴さを後世に伝えたい

追悼施設

12 島田空襲被爆者慰靈のつどい



開催概要（平成24年度）

歳事名 : 島田空襲被爆者慰靈のつどい
会場 : 扇町公園 平和之礎前
(JR島田駅 徒歩5分)
日 時 : 平成24年7月26日(木) ※例年7月26日開催
参列者数 : 130人
連絡先 : 島田市 総務部 総務課 0547-36-7132 (直通)

式次第（平成24年度）

1. 開式の辞
2. 黙とう
3. 式辞 : 島田市長
4. 平和への誓い : 被災地代表1人、小学生2人
5. 献花
6. コーラス・合唱
7. 閉式の辞

式辞（平成24年度）

本日ここに、ご遺族各位のご参列のもと、島田空襲被爆者慰靈のつどいを挙行するにあたり市民を代表し謹んで慰靈のこととを申し上げます。

今からちょうど67年前の7月26日、午前8時30分頃、ここ扇町に一万ポンドの爆弾が投下されました。それは、長崎や広島に投下された原子爆弾の模擬爆弾であったと言われております。この一つの爆弾により、ほんの少し前までいつも変わらぬ生活を送っていた人々の尊い命が奪われ、多くの住民が負傷いたしました。

あの日から半世紀以上の長い年月が過ぎましたが、最愛の内親を失われたご遺族の方々の胸には、今なお変わることのない深い悲しみが残っているのではないかと推察いたします。

戦争を知らない世代、平和であることを当たり前に思っている世代が人口の八割近くを占めるに至り、戦争の記憶は風化の一途をたどっております。しかしながら、私たちは、その平和と繁栄の陰に、このような悲惨な出来事があったことを決して忘れてはなりません。

今ここにいる私たちにできること、やらなくてはならないことは、戦争の悲劇を二度と繰り返すことのないよう、戦争の悲惨さを次の世代に語り継ぐことであります。この慰靈碑「平和の礎」を、島田市民の平和の原点として、平和の尊さを強く訴えていかなくてはならないと、思いを新たにしていきます。

今後とも、島田市民全ての幸福を願い、世界の平和と発展のため、全力を尽くしていくことをここに改めてお誓い申し上げます。

結びに、犠牲になられた方々の御靈が安らかなることをお祈りするとともに、ご遺族をはじめ本日ご参列の皆様方のご多幸を心より祈念申し上げ、式辞といたします。

平成24年7月26日
島田市長 桜井 勝郎

13 子どもやくよけ地蔵・慰霊碑



基本情報

所 在 : 磐田市立磐田北幼稚園 南
住 所 : 静岡県磐田市見付 2366-1付近
(JR磐田駅より 遠鉄バス「磐田北小」下車 徒歩1分)
連絡先 : 磐田市立磐田北小学校 0538-32-6168
建 立 者 : 遭難者父兄一同
建 立 年 : 子どもやくよけ地蔵…昭和20年5月19日
慰 霊 碑…昭和21年5月

碑 文

【木標・表】

子どもやくよけ地蔵

【木標・右】

昭和二十年五月十九日 見付国民学校（北小）先生と児童遭難の地

【慰霊碑・表】

慰霊碑

【慰霊碑・裏】

昭和二十年五月十九日午前十一時四十分見付国民学校職員児童此地ニ遭難ス

(故人名)

昭和二十一年五月 遭難者父兄一同建之

14 P T A 戦災被爆者慰霊祭



※写真提供 磐田北小学校

開催概要 (平成24年度)

歳事名 : P T A 戦災被爆者慰霊祭
会場 : 被爆者慰霊碑前
(JR磐田駅より 遠鉄バス「磐田北小」下車 徒歩1分)
日 時 : 平成24年5月18日(金) ※例年5月19日開催
参列者数 : 約70人
連絡先 : 磐田市立磐田北小学校 0538-32-6168(代表)

式次第 (平成24年度)

1. 開会の言葉
2. 仏教会の皆様による御回向
3. 児童代表の言葉 : 御遺族代表
4. 御あいさつ : P T A会長
5. お札の言葉
6. 閉会の言葉

児童代表の言葉 (平成24年度)

慰霊祭

昭和二十年五月十九日、磐田北小学校に、悲しい出来事がおこりました。田中小苗先生と小学生二十八人の命がB二十九のこうげきによって一しゅんでうばわれてしまいました。
私は一生年の時に、戦争というおそろしい争いがある事を知りました。そして、とてもこわいなと思いました。
田中小苗先生が、亡くなられる前に、神様にむかって書いた短歌があります。
「ねがわくは われがちるともかえりみし 子らをたすける力さずけよ」
この短歌は、自分はどうなつてもいいから子供達だけは助けてください。という意味のものです。私は田中小苗先生は子供思いのとてもすばらしい先生だと思いました。

私のおばあちゃんさんは、戦争が終わってから、わずか九年後の昭和二十年八月。二十四日、疎開先のいなかで生まれました。戦後の食料、物資、医療品が不足する中、赤ちゃんを育てるのは大変だったでしょう。ひいおばあちゃんさんは、自分の食べるものも手に入らないのに、赤ちゃんとお母さんのために少しでもミルクやおむつが手に入るよう苦労したそうです。今、私がいるのは、ひいおばあちゃんが戦争を乗りこえ、おばあちゃんを生み、育ててくれたおかげです。そんな家族に心から感謝いたします。

私は磐田北小学校で平和学習に取り組む中で田中小苗先生や、ひいおばあちゃんのように、自分のことよりも、子供の命を守ろうとする立派な人達がいたことを学びました。また、子どもの命を守ろうとする精神を語りつづけてくれたからこそ今の平和があるのだと思います。

この前、尾崎さんから平和は、空気のように平等であってほしい。しかし、あたりまえにあるものではないから自分たちの手で守っていかなければならぬ。と教えていただきました。

何千人何万人の人を傷つけ、悲しみにつつまれた戦争がもう二度とおこらないように、私は平和を祈ります。
そして、田中小苗先生と、二十八人のみなさんから学んだ、平和の大切さ、命の大切さを、未来の人々に語りつづけていきます。だから安心して安らかにお眠りください。
永久に平和が続きますように。